

平成 30 年度(1)-①

基本方針 (1) 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 一資料・情報提供機能

## ●評価項目 ① 貸し出しと閲覧サービスの充実

自己評価	B	外部評価	
------	---	------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：人口一人当たりの貸出冊数（たちばな号含む）	選書、PRの工夫	6.00	5.12	5.17
イ：予約数	PRの工夫	41,000	41,000	42,571
ウ：大活字本、点字資料等の受入冊数	積極的な選書	40	40	34
エ：外国語書籍の受入冊数	積極的な選書	20	16	28
オ：実利用者数	選書の工夫	17,000	15,000	13,883
カ：新規利用登録者数	選書、PRの工夫	2,300	2,000	2,067
キ：利用者アンケート9-②（読みたい本があったか）の平均	選書の工夫	4	3.5	3.4
ク：資料受入冊数	予算の確保、適切な選書	14,000	13,000	14,354
ケ：たちばな号の利用者数	ステーションの位置検討	5,400	4,000	4,037
コ：たちばな号の貸出冊数	選書の工夫	35,000	26,000	26,864

## ○取組予定

- 種々の指標を向上させるため、実利用者数の向上に取り組む。そのため、広報や主催事業を積極的に実施し、来館者の増だけでなく、利用者（本を借りた人）の増を図る。

## ○取組結果

- たちばな号については、利用者数、貸出冊数ともに前年を上回った。
- 人口一人当たりの貸出冊数（ア）と予約数（イ）は前年を上回ったものの、ほぼ横ばい傾向である。

- 実利用者数（才）は前年を下回り、減少傾向が続いている。
- 資料受入冊数（ク）の増は、過去2年間で少なかったことによる。

#### ○成果と課題

- たちばな号は選書の工夫も行っているが、高齢化等により本館へ来られなくなった利用者も増加してきており、今後、増加要因の詳細な分析を行うとともに、ステーションの位置の検討も必要である。。
- 新規利用登録者数（カ）は前年を上回ったが減少傾向にあり、来館者数も減少傾向にあることから、図書館を利用したことがない住民に対するPR活動が重要であると考える。

#### ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(1)-②

基本方針 (1) 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 一資料・情報提供機能

## ●評価項目 ② レファレンスサービスの充実

自己評価	C	外部評価	
------	---	------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：レファレンスサービスの件数	PR の工夫	450	410	311
イ：職員研修の実施回数	職員研修の充実	6	4	2
ウ：外部研修（県立図書館等主催を含む）の参加者数	各種研修への積極的な参加	15	15	15

## ○取組予定

- ・まずは、来館者にレファレンスを依頼してもよいということを周知したい。
- ・また、休館日を利用した職員研修を 4 回実施する。
- ・外部研修への参加者数は予算と時間の制約もあり、人数を増やすことは難しいため、参加者数を維持し、確実に伝達研修を行えるように取り組む。

## ○取組結果

- ・レファレンスサービスの件数は年により差がある。PR の工夫は、特別にはできなかった。
- ・レファレンスサービスに関する職員研修は 2 回で、内 1 回は愛知・犬上地域 4 町と共同で実施した。
- ・外部研修参加人数は前年度と同様となり、目標を達成した。

## ○成果と課題

- ・レファレンス件数のカウント方法について、書面による申請等により把握するようになった。
- ・毎月第 4 木曜日の休館日を利用して全体ミーティングを行っており、その中で研修を行うようにしているが、レファレンスを主とする内容は 1 回のみとなった。大切な研修であるので、今後、計画的に実施したい。
- ・外部研修への参加は費用と時間が必要であり、全員が参加できないため、研修に参加したものが確実に伝達を行うことにより職員間で共有し、研修の効果を最大限生かしたい。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(1)-③

基本方針 (1) 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 一資料・情報提供機能

## ●評価項目 ③ 暮らしに役立つ情報の提供

自己評価	B
------	---

外部評価	
------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：テーマ展示の実施回数	PRの工夫・YA コーナーの充実	20	17	30
イ：中高生の利用者数	魅力的なテーマ 展示の実施	1,000	900	850

## ○取組予定

- ・テーマ展示実施回数は、前年度を維持する。
- ・中高生に図書館の利用を直接訴える方法を検討する。

## ○取組結果

- ・テーマ展示の実施回数が昨年度より大きく増加したのは、特に、追悼展示を積極的かつタイムリーに実施したことによる。
- ・長浜市や米原市と連携し、「湖北地区高校 生徒と先生のおすすめ本」というテーマでの展示を初めて実施した。
- ・中高生の利用者数は減少傾向が続いているが、その減少を抑える取組としては、YA コーナーの展示の工夫が主なものとなっている。

## ○成果と課題

- ・テーマ展示の内容によっては、好評なため途中で本を追加したことも何度かあった。今後も、追悼展示に加え様々なテーマで展示を行っていきたい。
- ・全体の図書館利用者の減とともに、中高生の利用者数も減っている。もともと、利用者数が少ない層であるので、引き続き学校と連携するなどして利用者増に取り組みたい。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(1)-④

基本方針 (1) 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 ー資料・情報提供機能

## ●評価項目 ④ ホームページ等による情報の発信

自己評価	B	外部評価	
------	---	------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：お知らせ、行事案内等のホームページ掲載回数	積極的な情報発信	60	50	59
イ：広報紙の掲載回数	積極的な情報発信	70	70	74
ウ：報道機関情報提供の回数	積極的な情報発信	12	10	8

## ○取組予定

- ・ホームページについては、きめ細かく、タイムリーな情報を提供できるようにする。
- ・広報紙へは行事の案内だけでなく、図書館の利用についても掲載できるように調整をする。
- ・報道機関へは、情報提供の回数を維持するとともに、記事掲載をしてもらえような情報提供を心掛ける。

## ○取組結果

- ・ホームページ掲載回数は、引き続き前年度を大きく上回った。
- ・広報紙の掲載回数は、100周年事業を行った平成28年度以上の回数となった。
- ・報道機関への情報提供の回数は、前年度をやや下回り目標には達しなかった。

## ○成果と課題

- ・ホームページシステムの更新により、情報発信がきめ細かくできるようになり、ホームページアクセス数も伸びており、また、タイムリーにも発信できた。
- ・広報掲載は、事業のお知らせが主なものであるため、発行の時期にも注意しながら計画的に、また、利用を促すような記事も掲載できるように取り組んでいきたい。
- ・図書館での比較的大きな行事等を中心に、報道機関に情報提供を行った。新聞掲載をされるとその効果を実感できるため、報道に取り上げてもらえるような魅力ある情報提供を、引き続き行っていきたい。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(2)-①

基本方針（2）歴史あるまちとして、郷土の文化を守り伝える図書館—資料収集・保存・支援機能

## ●評価項目 ① 資料の収集と受入

自己評価	A
------	---

外部評価	
------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：郷土資料の受入冊数	適切な選書、寄贈の呼びかけ	700	600	753

## ○取組予定

- ・まずは市庁舎内の出版物について、確実に図書館へ提出されるように呼びかける。

## ○取組結果

- ・前年度を上回り、目標は達成できた。

## ○成果と課題

- ・寄贈冊数が例年よりもたまたま多かったことによるもので、結果として目標達成には至ったが、今後も引き続き寄贈の呼びかけや行政資料の収集などに取り組みたい。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(2)-②

基本方針 (2) 歴史あるまちとして、郷土の文化を守り伝える図書館—資料収集・保存・支援機能

## ●評価項目 ② 資料の保存・活用

自己評価	C	外部評価	
------	---	------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：資料の展示・公開回数	資料の整理	1	0	0
イ：古文書・貴重資料の調査・研究の対応回数	職員研修の充実	100	80	51
ウ：舟橋聖一顕彰文学賞の応募数	PR の工夫	400	150	127

## ○取組予定

- ・資料展示を行うために、所蔵資料の整理を進める。文化財部学芸員との連携を図る。
- ・舟橋聖一顕彰文学賞の応募増を図るために、広報方法を見直す。特に高校については、学校を直接訪問するなどし、積極的に作品募集を行う。

## ○取組結果

- ・資料の展示・公開は行えなかった。(舟橋文庫については、閲覧希望者への対応は行った。)
- ・古文書等の調査・研究の対応回数も、前年度より減となった。
- ・舟橋聖一顕彰文学賞については、前年度に比べ応募総数はほぼ横ばいである。高校生の部では、前年度が0件であったので、特に市内の高校には直接出向いてPRも行ったが、2件の応募という結果となった。

## ○成果と課題

- ・資料の公開には、その前提として資料の整理が必要であるため、前年度には当時の文化財部の協力を得ることとし、意見交換を行った。今後も学芸員の協力を得ることや、図書館職員だけでもできる展示などにも取り組んで行けるよう努めたい。
- ・舟橋聖一顕彰文学賞事業については、小中学生の応募も総じて減少傾向にある。令和元年度から、舟橋聖一文学賞、同顕彰青年文学賞、同文学奨励賞の3つについて、その事業の在り方や故舟橋聖一氏の顕彰方法について、見直すこととしている。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(3)-①

基本方針 (3) 子どもの健やかな成長と豊かな心を育てる図書館 ー学びの場の提供

## ●評価項目 ① 子どもの読書活動の推進

自己評価	C	外部評価	
------	---	------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：学校への団体貸し出し数	学校へのPR、貸し出しリストの作成	2,500	1,700	1,488
イ：読み聞かせ、ブックトークの参加者数	実施の検討・準備	100	90	122
ウ：未就学児の登録者数	ブックスタートでのPR	1,000	850	840

## ○取組予定

- ・学校へ、図書館の本を利用できることをPRする。
- ・おはなし会の実施とともに、小学生高学年以上へのアプローチについて検討を行う。
- ・ブックスタートでの図書館利用PRに努める。

## ○取組結果

- ・学校への団体貸し出し数は、引き続き減少傾向にある。
- ・図書館主催のおはなし会（季節のおはなし会 4回）で、前年度より特に春・秋のおはなし会の参加児童が増加した。（平成 29 年度の「節分のつどい」は大雪のため中止であった。）これら以外での読み聞かせやブックトークは実施できていない。
- ・未就学児の登録者数は、年々増加している。

## ○成果と課題

- ・学校への団体貸し出し数の減少については、まずはその減少の要因分析を行い、学校へのPRと併せた取組が必要である。
- ・未就学児の登録者数増は、ブックスタート事業でのPRが一因となっているものと考えられるため、引き続きブックスタート事業でのPRを行うとともに、おはなし会などの充実に努めていきたい。
- ・ボランティアと図書館との連携を、今後も深めていく必要がある。

## ■図書館協議会からの意見



平成 30 年度(3)-②

基本方針 (3) 子どもの健やかな成長と豊かな心を育てる図書館 一学びの場の提供

●評価項目 ② 子育て関係機関・団体との連携

自己評価	B
------	---

外部評価	
------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：読み聞かせボランティア数	ボランティアの育成	30	21	20
イ：ブックスタート事業の推進	ブックスタートでのPR・利用者の開拓	—	—	—

## ○取組予定

- ・読み聞かせボランティアに対する研修を実施するとともに、今後のあり方について検討を行う。

## ○取組結果

- ・読み聞かせボランティア数は、やや減少した。
- ・4 ヶ月健康診査受診児の全員に対してブックスタートを実施し、全員へ絵本を配付した。

## ○成果と課題

- ・図書館が直接所管する読み聞かせボランティアは、現在、活動の場がブックスタート事業のみであり、人数が不足していないことから30年度の募集を行わなかったため、自然減となった。
- ・就学前の児童には、子ども未来部で各種広場の開催や、その中で読み聞かせ等も実施されている。今後も、子ども未来部とも連携し、ボランティアを募集するに当たっては活動場所の検討等を行う必要がある。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(4)-①

基本方針 (4) 心のやすらぎを与える居心地の良い図書館 一滞在型図書館の機能

## ●評価項目 ① やすらぎのある図書館づくり

自己評価	B	外部評価	
------	---	------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：利用者アンケート 9-③（居心地）の平均点	居心地の良い空間づくり	4.0	3.5	3.4
イ：利用者アンケート 9-④（職員の態度）の平均点	接遇の向上	4.5	4.0	4.2

## ○取組予定

- ・まずはアンケートを実施し、現状を把握する。
- ・接遇の研修を行い、利用者満足度の高い対応ができるようにする。

## ○取組結果

- ・開館（10時）までに1階書棚の整理を毎日行い、利用者が利用しやすい、また、図書を探しやすい書棚となるように努めた。（清掃については、委託により実施）
- ・接遇の研修も継続的に行っており、比較的良好な評価が得られた。

## ○成果と課題

- ・居心地の平均点では、平成30年度目標をほぼ達成したが、他館に比べ開架室の狭さや閲覧席が少ないことへの対応としては限界がある。
- ・良い評価の反面、窓口が混み合い職員が忙しい場面が多いことから、利用者から窓口職員に気軽に声がかけられないという自由記述もあった。
- ・職員に嫌な顔をされたアンケートや市政への意見提言への記入もあったが、その都度、職員には接遇について指導を行っている。利用者が気持ちの良いと感じる対応ができるように、引き続き接遇研修に取り組む必要がある。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(4)-②

基本方針 (4) 心のやすらぎを与える居心地の良い図書館 一滞在型図書館の機能

## ●評価項目 ② 居場所としての図書館づくり

自己評価	C	外部評価	
------	---	------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：利用者アンケート 7（滞在時間） の平均	滞在時間が延 びる工夫	30分	30分	43分
イ：来館者数	魅力ある図書 館づくり・利用 者の開拓	240,000	190,000	※1 187,956

※1 来館者数は、10月から11月にかけて来館者カウンター機が故障したため、推計値とした。

## ○取組予定

- ・まずは、アンケートを実施し、利用者滞在時間の実態を把握する。
- ・来館者数は、減少傾向に歯止めをかけるため、主催事業のPRに努めるほか、図書館利用について、広報紙への記事掲載を検討する。

## ○取組結果

- ・来館者数は減少傾向である。

※滞在時間の平均の指標はその目標を達成したが、アンケートの結果からは、当初の目標設定（30分）が短かった。

## ○成果と課題

- ・滞在時間が延びる工夫としては、図書資料の充実が重要と考える。また、ハード面では、閲覧席やくつろげるスペースが必要であるが、本館では物理的な限界がある。
- ・新規利用者開拓を狙い、引き続きロビーコンサートや所蔵資料等講演会、リサイクル市を行った。事業単体ではそれぞれ成果があったが、集客した未利用者に図書館利用者となってもらうための工夫ができていない。
- ・また、実利用者数は市人口の約12%程度であるので、未利用者に「身近な図書館」を感じてもらえるよう、今後も広報や取組を行っていく。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(5)-①

基本方針 (5) 市民の活動・交流を通して、新たな出会いを発見できる図書館 —活動支援機能

## ●評価項目 ① 多目的な活動を支える場所の提供

自己評価	B
------	---

外部評価	
------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：集会室の利用回数	利用条件の整理	180	180	※ 204
イ：図書館主催行事の開催数	イベント内容・ 対象の研究	11	11	12
ウ：学校と連携した学習と研究発表場所の 提供回数	学校との連携を 検討	3	1	0

※集会室の管理を厳格にしたことから、1人から2人の利用（行事の準備等）もその利用報告によりカウントしたため、例年より利用回数が大きく増加した。

## ○取組予定

- ・集会室の利用、図書館主催行事には、昨年通り取り組む。今年度は、主催行事実施に合わせて、図書館を利用してもらえるような仕掛けづくりに取り組む。
- ・学校にはまず、研究発表場所として図書館を利用してもらえるよう PR を行いたい。

## ○取組結果

- ・集会室は、図書館関係団体やおはなし会などで、よく利用された。
- ・季節のおはなし会 5 回（共催含む）、英語でおはなし会 2 回（4 日）、わらべうたのつどい、ロビーコンサート 1 回、リサイクル市 1 回（以上、図書館主催行事）に取り組んだ。
- ・学校との連携の検討はできていない。

## ○成果と課題

- ・集会室の利用は多いが、まだ利用は可能である。引き続き、利用条件の整理が必要となる。
- ・図書館主催行事はおおむね好評であった。今後は、今まで来館していない市民に PR できるような行事の実施を考えたい。
- ・学校との連携については、どのような連携ができるのかというところを、もう少し柔軟に考えていく必要がある。

## ■図書館協議会からの意見

平成 30 年度(5)-②

基本方針 (5) 市民の活動・交流を通して、新たな出会いを発見できる図書館 ー活動支援機能

●評価項目 ② 図書館に関わる各ボランティア団体との連携と協力

自己評価	C	外部評価	
------	---	------	--

評価指標	取組の方向	R2 年度 目標	H30 年度 目標	H30 年度 実績
ア：ボランティア団体との連携回数	各団体との意見交換の実施	5	4	5
イ：図書館ボランティア数	各団体の活動紹介に協力	40	21	20
ウ：地域文庫数	新規立ち上げ、継続活動への支援	15	13	11

## ○取組予定

- ・各団体の紹介をボランティア希望者に行うとともに、図書館でのボランティア受け入れについて検討を行う。
- ・地域文庫については、新規立ち上げ文庫のサポートを行う。

## ○取組結果

- ・ボランティア団体とおはなし会を共催した。
- ・地域文庫数は減少傾向にある。

## ○成果と課題

- ・ボランティア団体とはおはなし会だけでなく、日常的に連絡を取り合っている。図書館に関わってもらうボランティアはたいへん重要であるため、引き続き連携を図っていきたい。
- ・地域文庫は減少傾向にあるが、本市における図書館の立地の現状から、地域文庫活動の意義を再認識し、新規の地域文庫運営者の掘り起こしや、既存の文庫活動のサポートを引き続き行う必要がある。

## ■図書館協議会からの意見